

知事選 4氏が立候補

仲井真弘多氏

翁長 雄志氏

喜納 昌吉氏

下地 幹郎氏

辺野古で対立鮮明



出陣式で支持を訴える仲井真弘多氏＝30日午前9時10分すぎ、那覇市牧志



出陣式で支持を訴える翁長雄志氏＝30日午前9時27分、那覇市壺川



あいさつで支持を訴える喜納昌吉氏＝30日午前9時5分ごろ、南城市知念久高



祈願祭であいさつする下地幹郎氏＝30日午前8時33分ごろ、那覇市の選挙事務所

来月16日投開票

任期満了に伴う第12回県知事選が30日告示され、午前10時までには、届け出順に無所属新人で元郵政民営化担当相の下地幹郎氏(53)、無所属新人で元参院議員の喜納昌吉氏(66)、無所属新人で前那覇市長の翁長雄志氏(64)、無所属現職の仲井真弘多氏(75)の4人が立候補を届け出た。米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設問題を最大の争点に、保守分裂の混戦となる。各候補は出発式の後、県内各地へ遊説に繰り出した。投開票は11月16日。

沖縄の岐路

は辺野古移設阻止へ埋め立て承認の取り消しを掲げている。

2014知事選

普天間問題では仲井真知事が昨年12月、辺野古沖の埋め立てを承認。問題は山場を迎えており、政府が早期着工を目指す中、各候補は移設の賛否をめぐる激しい論戦を展開している。

30日、仲井真氏は本島中南部で街頭演説し、夜は沖縄支部総決起大会に臨む。翁長氏は辺野古、沖縄市などで遊説し、那覇市で支部総決起大会を開く。

下地氏は那覇市内各地や浦添市、宜野湾市などで街頭演説する。喜納氏は南城市の久高島で第一声を放ち、斎場御嶽、首里城などを回る。

解決策を提示し、喜納氏

必勝誓い、氣勢

立候補の届け出後、自身のポスターを張る喜納昌吉氏＝午前9時すぎ、南城市知念久高



喜納 昌吉氏(きな・しろうきち)48年6月10日生まれ。沖縄市出身。沖縄国際大学中退。04年参院選比

例代表で民主党から初当選。同年に同党県連代表に就任。10年落選。14年10月に民主党県連代表を辞任、知事選出馬を理由に党を除名された。

立候補の届け出を前に勝利を誓う下地幹郎氏(右)＝30日午前8時17分ごろ、那覇市おもろまちの選挙事務所



下地 幹郎氏(しもじ・みきお)61年8月14日生まれ、宮古島市出身。中央学院大卒。96年衆院選で自民

党から初当選。05年は無所属、09年は国民新党で当選。計4回当選。10年に国民新党幹事長。12年に郵政・防災相に就任した。同年の選挙で落選した。

沖縄大きく変わる時

下地幹郎氏

きょうから戦いだ。皆さんの力をいただき、この選挙戦を勝ち取りたい。やるべきことはやってきた。後はしっかりと刈り上げをして、必ず勝利する。全力で頑張る。本当にいい戦いができている。初の全島選挙だが、いろいろな方の意見をいただき、下地幹郎も一つ一つ政治家として成長してきた。沖縄も大きく変わらないといけない時だ。必ず結果を出して沖縄をよくしよう。

承認撤回を断言する

喜納昌吉氏

私は(普天間飛行場移設に伴う)辺野古の基地の問題について、埋め立て承認を取り消すことを断言する。いかなる方法を使っても取り消し、撤回をする。もしできなければ(当選しても)辞任する覚悟だ。辺野古は沖縄だけの問題ではない。地球上は今も戦争だから。沖縄が希望の光となり、世界に平和の花を咲かせていこう。沖縄に必要な基地は世界のどこにも必要ない。

出発式前の神事で手を合わせる翁長雄志氏(左)＝30日午前8時5分、那覇市壺川の選挙事務所



翁長 雄志氏(おなが・たけし)50年10月2日生まれ。那覇市出身。法政大卒。会社役員を経て85年に自

民公認で那覇市議に初当選し市議2期、92年から県議2期務め、97年に自民党県連幹事長。00年に無所属で那覇市長に初当選し4期14年務め、今月退任した。

基地押し付け理不尽

翁長雄志氏

今朝、魂魄の塔に手を合わせ、政治は平和が原点だと心から思った。私は保守だが、沖縄の保守だ。沖縄に基地を押し付ける理不尽は絶対に許せない。辺野古への新基地はありとあらゆる手段で造らせない。政治家はぶれたが、県民はぶれていないということを選挙でしっかりと示そう。子や孫が沖縄に誇りを持ってアジアや世界に雄飛して

知事選勝利を祈願する仲井真弘多氏(中央)＝30日午前7時57分ごろ、那覇市牧志の選挙事務所



仲井真 弘多氏(なかいま・ひろかず)39年8月19日生まれ、那覇市出身。東京大工学部卒。61年に通産

省(現経済産業省)入省。90年、大田昌秀県政で副知事。沖縄電力社長、県商工会議所連合会会長など歴任。06年知事選で初当選し、現在2期目。

第一に「普天間」解決

仲井真弘多氏

私は沖縄の誇りを胸に抱き、子や孫のため、残っているエネルギー全部をささげる覚悟だ。第一に普天間を解決する。これは最優先の課題だ。去年の暮れ、辺野古の埋め立てを承認した。5年以内の運用停止を安倍首相は確約してくれた。苦渋の選択だが、お互い助け合おう。経済も自立へ向かっている。市民、県民の命、健康、暮らしを守り抜くため、あと4年ください。確実に結果を出す。